

No. **64** 令和7年11月1日

編集・発行

青少年健全育成多賀城市民会議
(多賀城市教育委員会生涯学習課内)

TEL022(368)2444

多賀城市子ども会育成連合会
(多賀城市中央公民館内)

TEL022(368)0133

多賀城市子ども会育成連合会主催事業「サマーキャンプ」

令和7年7月20日～21日

初開催から3年が経ち、夏休みの恒例行事となりつつある「サマーキャンプ」は、宮城県松島自然の家を会場に、一泊二日のキャンプを通じて、自然体験活動が盛り沢山のプログラムを実施しました。

高波の影響でいかだ作りが中止となり、浜を変えての海水浴となりましたが、子どもたちは急な変更をもろともせず、全てのプログラムを全力で取り組んでくれていました。初開催から必ず参加している子もいれば、今回が初参加で慣れていない子もいましたが、一緒に活動してくれたジュニアリーダーのお兄さんお姉さんのおかげで、緊張せず楽しむことができていました。

キャンプファイヤーでは、初めて見る大きな炎に圧倒されながらも、みんなで考えたスタンツやレクダンスを全力で取り組み、素敵な笑顔を見せていました。

参加した子どもたちからは、「また来年もキャンプに来たい!」といった声や、高学年の子どもたちからは「絶対自分もジュニアリーダーになる!」といった声がたくさんあり、「サマーキャンプ」に参加した子どもたちにとって、最高の夏休みのスタートを切れたようです。



子どもたちの成長と一緒に応援 しませんか? 会員募集中!!

サマーキャンプをはじめとする直接的な事業運営のほか、金銭面で子どもたちへの援助ができる制度もございます。

詳しく知りたい方は下記まで
お問合せください。

HPはこちらから→→



多賀城市子ども会育成連合会事務局
(中央公民館) ☎022-368-0133



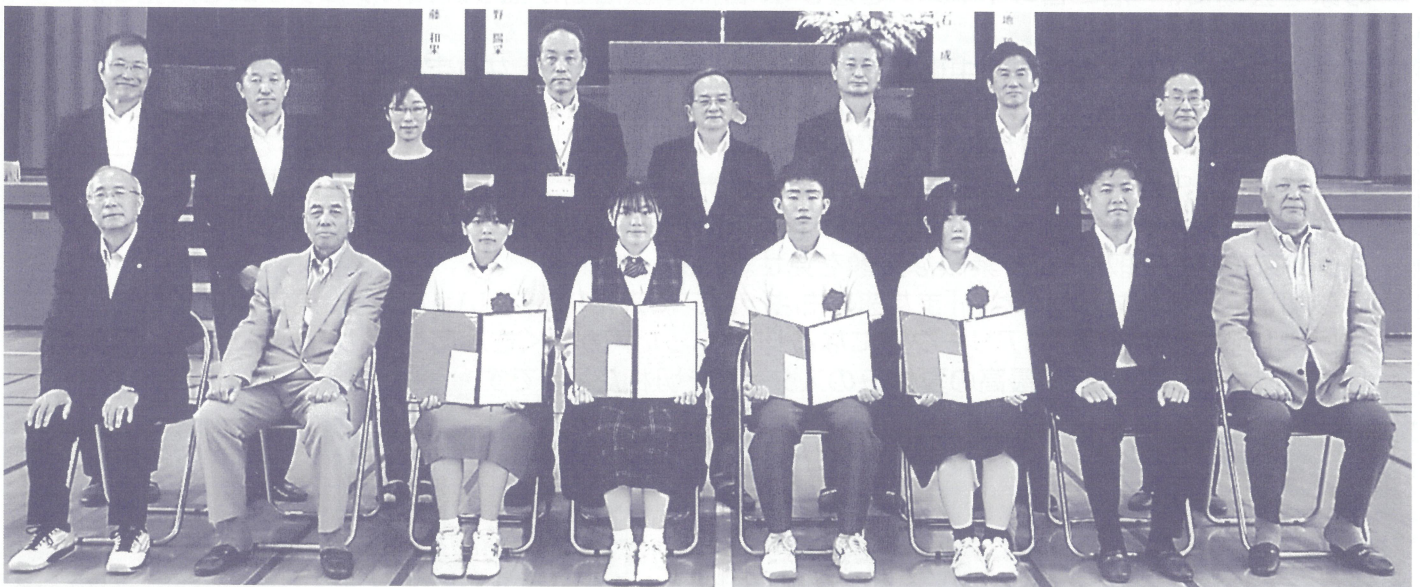
令和7年度「少年の主張」多賀城市大会

～4中学校の代表者がそれぞれの思いや決意を堂々と発表！～

令和7年度の「少年の主張」多賀城市大会は、6月10日（火）、第二中学校体育館を会場に開催されました。市内4中学校の代表生徒・引率者・保護者、来賓の多賀城市長・多賀城市会議長・多賀城市校長会長をはじめ市会議議員、多賀城市青少年健全育成諸団体の関係者、第二中学校の生徒・教職員等、598名の参加をいただきました。代表生徒の皆さんは、自分の思いや決意を大勢の前で堂々と伝えました。聴衆として参加した第二中学校の生徒の皆さんも、発表者の意見に真剣に耳を傾け、大変立派でした。今年度もすばらしい大会になりました。

…多くの皆さんの前でしっかりと自分の考えや思いを、自信を持って伝える姿に大変感心させられました。そして、どの発表からも熱い思いが伝わってきました。今の時代は、いろいろな情報が簡単に手に入ります。その時代を生きるみなさんは、氾濫する情報の中から自分に必要な情報の取捨選択が迫られています。それだけではなく、人と人とのかかわりの中で、喜んだり悩んだりしながら多くのことを学んでいることと思います。そのような生活の中で、疑問に思うことやなるほどと思うことが、日々さまざまなことでしょう。そこで考えたことを整理し、まとめ、相手にその考えを伝えることはとても大事なことで、すばらしいことです。改めて、本日発表した4人の皆さんに、心から敬意を表します。…

（審査員長 山王小学校 福田英明校長先生）



【優秀賞】「気持ちを伝え合う言語」

高崎中学校3年

菊地 和来（わ こ）さん（仙台地区大会出場）

【優良賞】「夢の実現のために」

多賀城中学校3年

明石 成（な る）さん

「制服と個性の尊重について」

東豊中学校3年

今野 陽采（ひいろ）さん

「誰かを思う敬意のかたち」

第二中学校3年

佐藤 和果（のどか）さん



優秀賞 「気持ちを伝え合う言語」

高崎中学校 3年 菊地 和来

幼稚園の頃から母にくっついて通っていた手話サークル、母に促されて聴覚障害者の方々と話した時、素敵な笑顔で接してくれた。初めてコミュニケーションをとる方法は手話だけではなく、表情や態度でも気持ちを伝えることができると気づいた。それから、サークルでの会話は楽しい時間になり、交流を通して、手話は日本語と同じように一つの言語であると考えようになった。

そのうち、手話を学ぶことは、表現を学ぶだけでなく、聴覚障害者の文化や社会を学ぶことだと感じるようになった。同時に聴覚障

害者が抱える問題についても一緒に考えていかなければならないということを感じた。「地震が起きたときの緊急地震速報が聞こえないから、逃げ遅れてしまわないか心配。」というサークルの方の話…聴覚障害者も健常者と同じように情報が保証され、安心して生活できる社会をつくっていききたい、私の心にそんな気持ちが芽生えるようになった。

私は、聴覚障害者の方とお互いに理解し合い、気持ちを共有できる豊かな社会をつくっていききたい。そのための一歩として、改めて手話を学び、聴覚障害の方と交流し、お互いの気持ちを伝え合っていきたいと思う。サークルで私に優しく接してくれた方々のためにも。

（以上、発表を要約したものです。）

…聴覚障害の方々とコミュニケーションは、発表にもあったとおり、きっと楽しく有意義な時間へと変わっていったのだと思います。そして、気持ちを伝え合う言語である「手話」を学ぶ中で、さらに聴覚障害者の方々の文化や社会について学ぶことの必要性を感じたこと、大変すばらしいです。和来さんの目指す「聴覚障害者の方とお互いに理解し合い、気持ちを共有できる豊かな社会」が、近い将来実現することを願っています。その一歩として、和来さんの行っている取組が、今後、様々な人に影響を与え、世の中全体に広がっていくことを期待しています。…（審査員長講評からの抜粋）

※ 菊地和来さんは、7月1日（火）、塩竈市民交流センター遊ホールで行われた仙台地区大会に出場し優良賞を受賞しました。



■優良賞■ 「夢の実現のために」

多賀城中学校 3年 明 石 成

自分の夢を持ち、それを叶えるためには、何が必要か？

先入観にとらわれず、失敗を恐れずに挑戦すること。そして、見つけた夢を人に伝えることが大切だ。

「先入観にとらわれず」…中学校での朝読書。「本を読む」ことで、「長文が苦手だ」という先入観を破

ることができた。「失敗を恐れずに挑戦すること」…部活動のバスケットボール。シュート練習を重ねるだけでなく、自分の努力を信じる。失敗するかもしれないと思う自分の気持ちを変えること。自分を信じ努力した結果の失敗は、貴重な「学び」。「学び」を繰り返すことで、自分の夢や、本当に自分がやりたいこと、自分に合っていることが見つかる。

そして、「見つけた夢を人に伝えること」…夢を語り合うことで、その人の夢や思いを知ることができ、その人のことをより深く知る機会になる。さらに、自分で言葉にすることで、「自分はこんな思いを持っているのだ」と、改めて自分の夢への思いを強めることができる。

私の夢は、今ある大手スポーツメーカーを超える、会社を立ち上げること。この夢を実現させる。自分の夢を、自分自身に問いかけてみる。夢は、自分自身で実現できる。

(以上、発表を要約したものです。)

…自分の夢を持つ機会を減らしてしまっている、周囲に流されるだけの人間になってしまう、夢を探し、叶えるためには何が大切であるかということについて、自分の経験や体験を踏まえて、力強く伝えてくれました。…今の世の中、失敗することを恐れ、新しいことや、ちょっとハードルの高いことにはチャレンジせず、安全で楽な道を進もうとする人たちが増えているように感じています。しかし、失敗することがあるかもしれない、くじけそうになるかもしれない、でも、「自分を信じ、努力した結果の失敗は、自分が立ち向かい、挑戦してきた結果であり、貴重な学びである」と話してくれました。本当にそのとおりだと思います。…(審査員長講評からの抜粋)



■優良賞■ 「制服と個性の尊重について」

東豊中学校 3年 今 野 陽 采

学校の制服について、自由に服を選べる環境が増えれば、もっと多様性を尊重できる社会になるのではない。

私の学校では、女子もズボンを選べるようになり、選べる自由で、みんな自分らしく生活できている。

制服を自由に選べることは、学校生活の中で個人の尊重が大切だという考えに繋がる。性別にとらわれずに自分らしい選択ができる環境があれば、みんなが自分らしくいられる社会が作られる。自分の気持ちに合った服を着ること、もっと快適に学校生活を送ることができ、毎日がもっと楽しくなる。自分のセクシャリティに疑問をもっている人たちも、服装の選択肢が広がることは、自己表現の一環として非常に大きな意味を持つ。

服装が自由になることで、学校のルールが崩れるという心配があるが、服装に自由があっても、学校生活の中での基本的なルールやマナーを守ることができれば、それはむしろ自分をしっかりと管理する力を育てることに繋がる。自由と責任を両立させることが、より良い学校生活を送るためには重要なこと。

制服の自由化は、性別に関する固定観念をなくし、もっと多様性を尊重できる社会を作るための一歩になる。

制服の自由化が進むことで、より多くの人が自分の気持ちに合った服を着ることができ、心地よく過ごすことができるようになる。

服装の自由化が進むことで、性別に関係なく、みんなが自分らしく生きられる社会が実現できると信じる。

(以上、発表を要約したものです。)

…ジェンダーストレスがかかる社会における問題も含めて、個性の尊重について「制服を選択できること」、「自分らしい選択ができること」を切り口として問題を提起してくれました。制服を選択することで、スカートではなくズボンを履いている女子生徒が多いという現状から、陽采さん自身もスカートとズボンを抵抗なく選択できることで、現在、自分らしく快適に学校生活を送ることができているということが大変喜ばしいことだと思います。さらに制服を自由にすることで学校のルールが崩れてしまうという考え方に対しては、自由に選択することができるからこそ、「自分をしっかりと管理する力を高められるのではないか」「自由と責任の両立が学校生活の向上につながるのではないか」という「自分を律する力」を高めるための選択であるという考え方が、大変すばらしいと感じました。

…(審査員長講評からの抜粋)



■優良賞■ 「誰かを思う敬意のかたち」

第二中学校 3年 佐 藤 和 果

人や物、環境に無意識に敬意を払う日本特有の文化がなくなってしまうと心の底から願っている。

修学旅行のとき、外国人観光客がベンチに食べかけのものを乱雑に放置し、そのまま去っていくのを目にした。今、一部の観光客によ

て、その誇れる日本特有の文化が踏みじられてしまっている場面も少なくない。「外国人観光客の迷惑行為」を見るたびに「不安」や「違和感」を感じ、「他人事ではない」と思っている。

迷惑行為は「外国人かどうか」ではなく、「文化への理解と敬意があるかどうか」で決まる。日本に住んでいる私達自身が、誇れる文化を心から大切に、日本を代表する振る舞いをすれば、自然とそ

れらは広がっていくと思う。

観光には、「楽しむ権利」と同時に、その土地や自然、その土地の人々や文化に「敬意を払う義務」があると私は思う。観光客だからこそ、その地域の歴史や価値に敬意を示し、大切にすることが必要がある。

私たちの住む日本の文化を一人ひとりの手で守っていくために、私たちができることはなにか。

それは様々なものや自然、そして人に対して尊重するという姿勢を忘れないこと。私達自身が日本文化を「ただの昔の習慣」としてではなく、「今を生きる価値」として尊重し、生活の中で「誰かを思う敬意のかたち」として表現すること。それが、きっと未来の観光客にも影響を与えることにつながると信じている。

(以上、発表を要約したものです。)

…外国人の問題としてとらえるだけではなく、私たち日本人にとっても本当に「自分たちの誇れる文化を大切にしているのだろうか」と、自分たちの問題として提起してくれました。私たちの地域の歴史や文化を日本人である私たち自身が、最も大切にしていかなければならないのだと、改めて考えさせられました。ここ多賀城市も多賀城創建1301年目の年を迎えています。その歴史を知り、伝統を受け継ぎ、未来へ伝えていくために、忘れてはいけないもの、それこそが演題である「誰かを思う敬意のかたち」なのではないでしょうか。歴史ある多賀城市に住む、私たち一人一人が、このような気持ちをもって生活することこそが、日本の良き文化と伝統を継承していくことにつながっていくのだと思います。…(審査員長講評からの抜粋)

これから社会を支えていく中学生の皆さんの真剣な姿に感銘を受けました。すてきな発表をありがとうございました。



ジュニアリーダー初級研修

令和7年7月29日～30日

ジュニアリーダー初級資格を得るための研修を、国立花山青少年自然の家を会場として、泊二日で実施しました！

沢登りや野外炊飯、キャンドルサービスなど様々な活動を行ったり、レクリエーションゲームのやり方を学んだりしながら、ジュニアリーダーとしての技術を習得し、新たに14人のジュニアリーダーが誕生しました！

今後の地域での活躍にご期待ください!!

多賀城市ジュニアリーダー「エステバン」への派遣依頼 絶賛募集中!!

市内各地区子ども会イベントを始めとする様々な子ども向けイベントにジュニアリーダーを派遣することができます!!



HPIはこちらから

詳しく知りたい方は下記までお問合せください。

「エステバン」事務局
(中央公民館) ☎022-368-0133

小学生・中学生のみなさんへ



こま
・困っている…
なや
・悩んでいる…
・いじめにあっている…



【こどもナヤミ相談】 ☎368-2457

☆ 相談曜日 月・火・水・木・金

☆ 受付時間 あさ10:00～ ゆうがた16:00

【保護者・高校生の方は…青少年育成相談へ】

青少年問題・悩みなど ☎368-2457

○電話相談 月曜～金曜 10:00～16:00

○面接相談 毎週火曜 10:00～15:00

※名前など言わなくてもできる相談です。

※秘密は絶対に守ります。



多賀城市青少年育成センター
(多賀城市教育委員会生涯学習課内)